GRAPHTEC

ROBO Master Pro

取扱説明書

MANUAL NO. OPS661-UM-103

OPS661

ソフトウェア使用許諾契約書

グラフテック株式会社（以下、当社と呼びます）は、本規定とともに提供するソフトウェア（以下、本ソフトウェアと呼びます）を、日本国内に限って使用する権利を、下記条件にもとづきお客様に許諾し、お客様も下記条件にご同意頂くものとします。

1.著作権

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアに伴って提供されるマニュアル等の印刷物に記載された情報の著作権は本ソフトウェアまたは当該印刷物に記述された個人または法人にそれぞれ属します。

2.使用権

① お客様は、本ソフトウェアを一時に一台のコンピュータ機器に使用できます。

② お客様は、本ソフトウェアを輸出または日本国外に持ち出すことはできません。

3.複製または改造

① お客様は、予備（バックアップ）のため、本ソフトウェアを複製することができます。この場合、お客様はすべての複製物に本ソフトウェアに付された権利（著作権）表示を行うものとします。

② お客様は、本ソフトウェアの逆アセンブルおよび逆コンパイルを含め、いかなる方法によっても、本ソフトウェアを改変、結合、修正、その他の翻案を行うことはできません。

4.第三者の使用

お客様は、本ソフトウェアおよび使用権を第三者に対して、再使用許諾、譲渡、移転、その他の処分を行うことはできません。

5.保証

① 本ソフトウェアの記憶媒体の物理的不良のために、本ソフトウェアが正常に動作しない場合には、ご購入いただいた販売店にお申しつけください。当該物理的不良について当社に責任がある場合無償で交換いたします。

② 前項の交換は本ソフトウェアの記憶媒体に対する当社の唯一の保証と致します。

③ 当社は本ソフトウェアを「そのままの状態で」提供します。当社およびサプライヤーは、お客様が本ソフトウェアまたはドキュメンテーションのご使用によって得られる可能性のある性能または結果については保証致しません。また、当社およびそのサプライヤーは、第三者の権利の不侵害、商品性または特定目的への適合性に関して、いかなる明示または黙示の保証も致しません。いかなる場合においても当社またはそのサプライヤーは、付随的、派生的または特別の損害について責任を負いません。たとえ販売店がその種の損害が発生する可能性について通知をしていたとしても、当社またはそのサプライヤーは責任を負うものではありません。第三者からなされる権利の主張に対する責任も負いません。

登録商標について

- 本書に記載されている会社名・製品名は、各社の登録商標または商標です。
- 「ROBO Master Pro」ソフトウェア本体および本書は、グラフテック株式会社がすべての著作権を保有しています。

本書に関する注意

- 本書の内容の一部、または全部を無断で複写・転載することを禁止します。
- 本書の内容および製品の仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書および製品の内容につきましては万全を期しておりますが、万一ご不明な点や誤りなどお気付きの点がございましたら、弊社またはお買い上げの販売店にご連絡ください。
- 本書、および製品を運用した結果の影響につきましては、上記の項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

サポート

- グラフテック株式会社 コールセンター
  TEL　：0570-016262（ナビダイヤル）
  受付時間　9：00～19：00（土・日・祝祭日と弊社指定の休日を除く）
  **※ ただし、通話地域制限がある内線電話からはご利用できません。全国通話ができる電話機をご使用ください。
  また、携帯電話をご使用の場合、ナビダイヤルにつながらない事があります。その場合は、045-825-6382におかけください。**
  FAX　：0120-710697
  E-mail：graphcs@graphtec.co.jp

おことわり

本説明書に掲載されているソフトウェアのイメージ図は、一部に開発時のものを使用しており、細部の表示が実際のものと異なる場合があります。機能や設定の配置などは、実際のものと変わりありませんので、ご了承ください。

第１章　はじめに

本ソフトウェアROBO Master Proは、簡易な図形や文字のアウトラインデータを作成し、Craft ROBO Pro Ⅱ・Craft ROBO Pro・CE5000へ出力することができる、編集・出力ソフトウェアです。さらにイメージデータ取り込みやトンボの自動作成など、プリント＆カットのための便利な機能をサポートしています。

1.1　特徴

ROBO Master Proは、次のような特徴があります。

（1）トンボの自動作成機能をサポートしています。

（2）プリントイメージ、カットイメージ、およびその重ね合わせイメージのプレビュー表示ができます。

（3）Auto CAD R13形式のDXFファイルを読み込むことができます。

（4）カット出力時、色別に出力/非出力を選択することができます。

1.2　動作環境

ソフトウェアが動作するためのシステム（最低条件）は、下記のものが必要です。

- OS　：Windows 2000 ／ Windows XP
- CPU　：Pentium Ⅲ　600MHz以上
- メモリ：128MB　以上（推奨256MB　以上）
- モニタ：1024x768　High Colorが表示できること（推奨True Color）
- マウス
- CD-ROM ドライブ
- 対応プロッタ（カット時）：Craft ROBO Pro Ⅱ（CE3000-40-CRP Ver.7.00）
Craft ROBO Pro（CE5000-40-CRP）
CE5000
※プロッタは、USB接続されていること。
- 対応プリンタ（印刷時）：Windows対応プリンタ　インクジェット方式推奨

1.3　注意事項

- 読み込めるDXFのオブジェクトは、線分・ポリライン・スプライン・円・円弧・楕円のみです。また、ブロック参照されたオブジェクトやスプライン・文字・寸法線などは読み込めません。
- プロッタの設定・操作方法は、プロッタの取扱説明書を参照してください。

※ 本文中の画面はすべてWindows XPのものを使用しています。

第２章　ROBO Master Proのインストール

2.1　スタートウィンドウの起動

付属のCDをコンピュータに入れると、下記のような［スタート］ウィンドウが表示されます。起動しない場合は、「マイコンピュータ」を開き「CD ドライブ」をダブルクリックしてください。上記でも起動しない場合は、CD-ROMにある「MultiSetup.exe」を実行してください。

2.2 ROBO Master Proのインストール

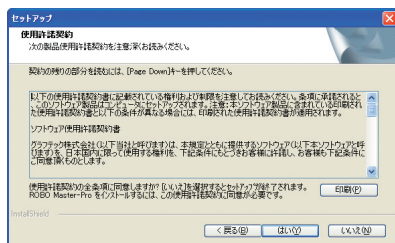
［スタート］ウィンドウ上の「Craft ROBO Proセットアップ」または「CE5000セットアップ」をクリックすると、インストールプログラムが起動します。

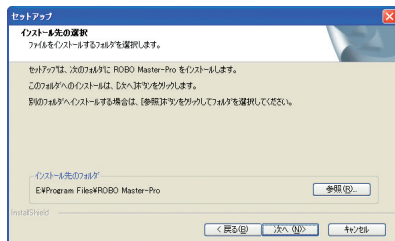
※ ROBO Master Proのインストール終了後、自動的にCutting Plotterコントローラとドライバのインストールが行われます。

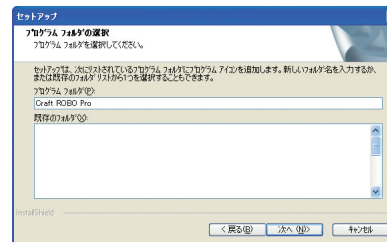
インストールの手順

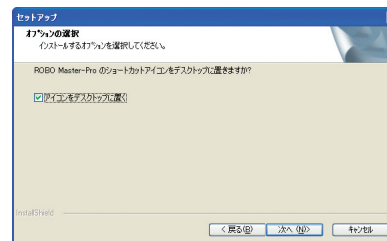
（1）インストールプログラムが起動すると、はじめに以下の画面が表示されます。

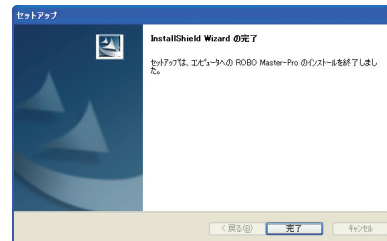
［次へ］ボタンをクリックして、先に進んでください。

（2）「使用許諾契約」の画面が表示されます。

よく読んで、このままインストールを続ける場合は、［はい］ボタンをクリックしてください。

（3）「インストール先の選択」の画面が表示されます。

フォルダを変更したい場合は、［参照］ボタンを押してフォルダを指定します。
［次へ］ボタンをクリックして、先に進んでください。

（4）「プログラムフォルダの選択」の画面が表示されます。

プログラムフォルダとは、Windowsのスタートメニューで表示されるフォルダの名前です。
変更がない場合は、そのまま［次へ］ボタンをクリックして、先に進んでください。

（5）「オプションの選択」の画面が表示されます。

［アイコンをディスクトップに置く］を選択します。
［次へ］ボタンをクリックして、先に進んでください。

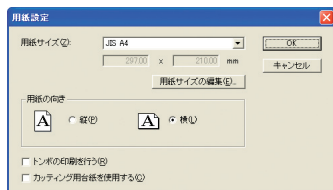
（6）ファイルのコピーが終了すると、「インストールの完了」画面が表示されます。

［完了］ボタンをクリックすると、インストールを完了します。

第３章　基本的な操作

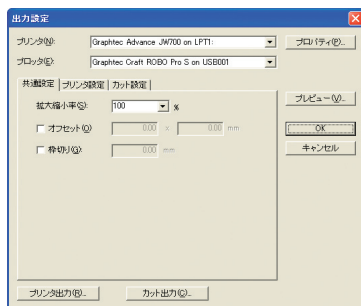
本ソフトウェアをセットアップすると、スタートメニューの「Craft ROBO Pro」に「ROBO Master Pro」が追加されます。Windowsのスタートメニューから［ROBO Master Pro］アイコンをクリックして、ソフトウェアを起動します。

3.1　準備

（1）新規データの作成

［ファイル］メニューの「新規作成」を選択すると、［用紙設定］ウィンドウが表示されます。

用紙サイズを出力する大きさに合わせて設定し、「トンボの印刷を行う」「カッティング用台紙を使用する」の有効／無効を選択して、［OK］ボタンを押してください。

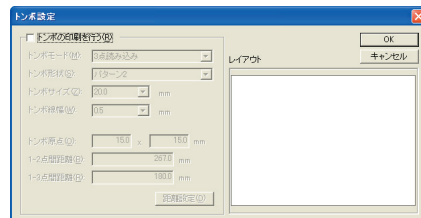
（2）出力先の設定

［ファイル］メニューの「出力設定」を選択すると、［出力設定］ウィンドウが表示されます。

「プリンタ」の項目には、印刷に使用するプリンタのドライバを選択してください。「プロッタ」の項目には、カッティングプロッタドライバが自動で選択されます。ドライバが表示されない場合は、カッティングプロッタのセットアップを再度実行してください。

以上で、準備は終了です。

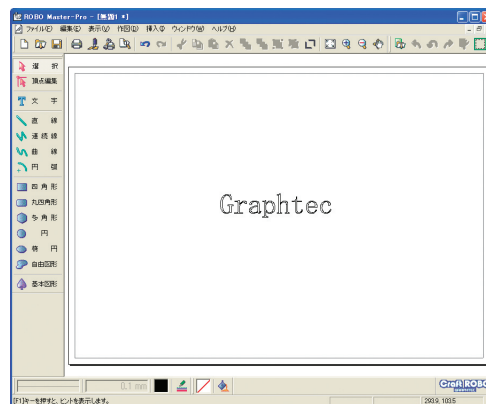
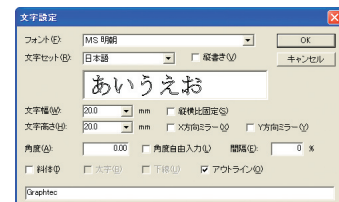
3.2　文字のアウトラインをカットするには

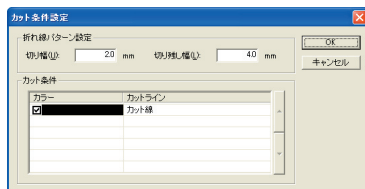
（1）トンボ設定

［編集］メニューの「トンボ設定」を選択し、［トンボ設定］ウィンドウを表示します。

「トンボの印刷を行う」のチェックを外してください。

（2）文字列の入力

［作図］メニューの「文字」を選択し、［文字設定］ウィンドウを表示します。

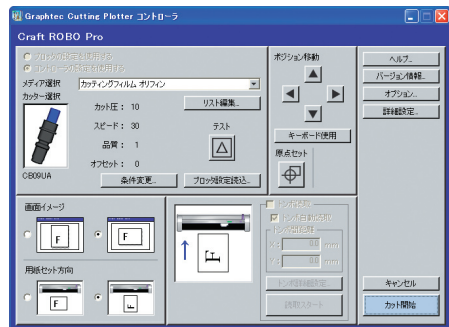
「フォント」「文字セット」「文字幅」「文字高さ」「角度」などを設定して、描きたい文字列を入力し［OK］ボタンを押すと、文字列がマウスカーソルに沿って表示されます。「アウトライン」にチェックが入っていることを確認し、文字列を置く位置を決めてマウスを左クリックしてください。

「角度自由入力」のチェックをONにしている場合は、続いて文字列の角度を決めます。マウスを動かすと文字列の配置角度が変わりますので、入力したい角度のところでマウスを左クリックしてください。このときに［Shift］キーを押しながら操作すると、角度は45度単位になります。

（3）カットデータの設定
[ファイル]メニューの「出力設定」を選択して[出力設定]ウィンドウを表示します。

[カット設定]タブを選択して[カット条件設定]ボタンを押すと、[カット条件設定]ウィンドウが表示されますので、文字列のアウトラインの色がチェックされ、「カットライン」に「カット線」が選択されている事を確認し、[OK]ボタンを押してください。

※ **使用した色は、全て自動的にカット条件のリストに追加されます。カットデータに使用する色以外のチェックを外してください。**

（4）出力イメージの確認
[ファイル]メニューの「プレビュー」を選択すると、プレビューを表示します。
[表示]メニューの「カット」を選択すると、カッティングプロッタへ出力される（カットする）線が確認できます。プレビューを終了するには、[出力]メニューの「閉じる」を選択してください。

（5）カット出力

ⓐ Cutting Plotterコントローラの起動
ROBO Master Proの[ファイル]メニューにある「カット出力」を選択し、表示されるウィンドウで[OK]ボタンを押すと、「Cutting Plotterコントローラ」が表示されます。
「Cutting Plotterコントローラ」では、カッティングプロッタの条件設定を簡単に行うことができます。

ⓑ カット条件の設定
カットするメディア（紙やカッティングフィルム）に合わせて、カット圧・スピードなどのカット条件を設定します。プロッタの操作パネルでカット条件を設定するか、コントローラで使用するメディアを選択してください。また、プロッタの取扱説明書を参考にカッター刃の刃出し量も調整してください。

ⓒ 画面イメージの設定
「画面イメージ」で、印刷したメディアに対するデザインの向きを設定します。画面に合わせて選択してください。

ⓓ 用紙セット方向の設定
「用紙セット方向」で、セットする時の方向を指定します。実際のセット方向に合わせて選択してください。

※ **用紙セット時に奥になる部分は、マージンが多めに必要です。マージンと作図可能領域については、カット領域（赤線の枠内）にデータが入るようにしてください。**

ⓔ メディアのセット
「用紙セット方向」で設定した方向にメディアをセットし、プロッタの操作パネルよりロードしてください。

※ **カッティングフィルムや台紙付きメディア以外は、カッティング用台紙（Craft ROBO Pro/Pro Ⅱには付属しています）にメディアを貼り付けてから、カッティングプロッタにセットしてください。**

ⓕ テストカット
テストカットでは、実際にメディアをカットします。初めてカットするメディア（紙やカッティングフィルム）の場合は、[テスト]ボタンでテストカットを行ってください。テストカットで使用するメディアは、カットするメディアと同じものを使用してください。
[ポジション移動]ボタンで、テストカットを行う位置にペンを移動してください。この時、[原点セット]ボタンは押さないでください。[テスト]ボタンを押すと、1cm×1cmの大きさのテストパターンをカットします。
テストカットの結果を見て、正しく切れない場合（切りすぎた場合や切れていない部分がある場合）は、Cutting Plotterコントローラ内の「条件を調整する」を使用して、最も良いカット結果が得られる条件を探してください。

ⓖ 原点のセット
カッティングプロッタで出力する場合、作図の基準となる点（原点）を変更することができます。通常、原点はメディアをプロッタにセットして、検出を行った時に最後にペン（カッター）が停止する位置です。
プロッタの操作パネルや、コントローラ内の[ポジション移動]ボタンで、原点にしたい位置にカッターを移動し、[原点セット]ボタンを押してください。その位置が原点になります。

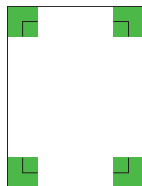
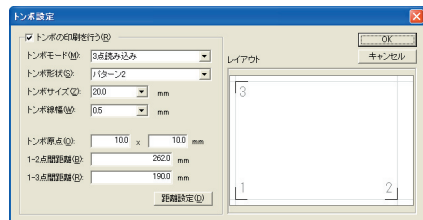
ⓗ カットする
Cutting Plotterコントローラで[カット開始]ボタンを押すと、カットを開始します。

※ **Cutting Plotterコントローラについては、Cutting Plotterコントローラの取扱説明書を参照してください。**

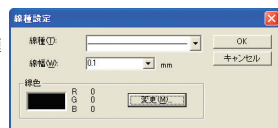
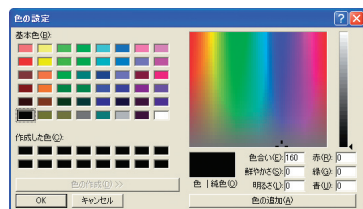
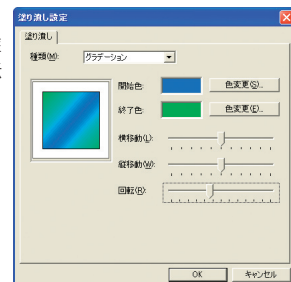
3.3 楕円の中に文字を描いて周りをカットするには

楕円の中に文字を描いたものをプリントし、その周りをカットする手順を説明します。
印刷物に対して輪郭をカットする場合は、トンボを一緒に印刷する必要があります。ここでは、先にトンボを作成し、その後に楕円を描きます。

※「トンボ」とは、プリンタによる印刷とカッティングプロッタによるカットを両方行う場合、プリントイメージとカットラインの位置合わせを行うために、プリントイメージの周りに印刷されるものです。「トンボ」は、四角形の角(L)の部分のような形状をしており、プリントイメージを囲むように配置されます。プリンタは機種によって、用紙に対して印刷できる範囲や印刷位置がわずかに異なります。カッティングプロッタは、トンボを読み取ることにより、印刷位置を認識して正しい位置にカットを行います。

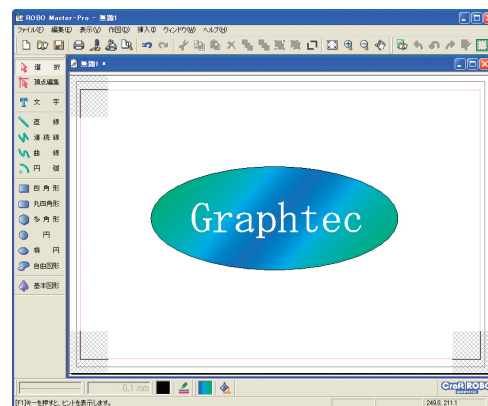
※ トンボを使用した場合、印刷を行う際トンボ周辺の一定の範囲は印刷されません。トンボを使用する際は、絵や文字など印刷する部分が図の緑色で示された範囲に入らないようにしてください。ただし、カットデータは図の緑色の部分にも出力されます。

(1) トンボ設定
新規にデータを作成します。
[編集] メニューの「トンボ設定」を選択し、[トンボ設定] ウィンドウを表示します。
「トンボの印刷を行う」にチェックを入れて、「トンボモード」「トンボ形状」などを設定します。

(2) 楕円の作成

ⓐ 楕円の作図
[作図] メニューの「楕円」を選択します。楕円の中心点でマウスを左クリックし、マウスを動かすと楕円が表示されますので、作図したい楕円の形状にして、もう一度マウスを左クリックしてください。

ⓑ 線の色の設定
作図した楕円を選択した状態で [作図] メニューの「線種設定」を選択し、[線種設定] ウィンドウを表示します。

[線色の変更] ボタンを押すと、[色の設定] ウィンドウが表示されますので、使用する色を選択してください。

ⓒ 塗り潰し設定
作図した楕円を選択した状態で [作図] メニューの「塗り潰し設定」を選択し、[塗り潰し] ウィンドウを表示します。
「種類」を変更して、色やグラデーションを設定してください。

(3) 文字列の入力

ⓐ 文字列の入力
[作図] メニューの「文字」を選択し、[文字設定] ウィンドウを表示します。「フォント」「文字幅」「文字高さ」などを設定して、描きたい文字列を入力し、[OK] ボタンを押して文字を配置してください。

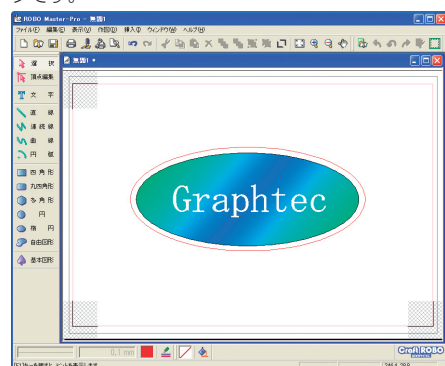
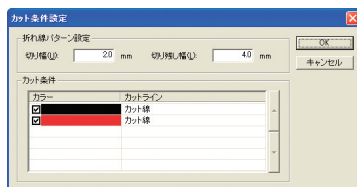
ⓑ 文字色の設定
[作図] メニューの「線種設定」を選択し、[線種設定] ウィンドウを表示します。[線色の変更] ボタンを押して、文字(線分)の色を選択してください。

ⓒ 文字列の調整
[作図] メニューの「オブジェクト選択」を選択し、文字列をクリックすると、文字列を囲む枠が表示されます。この状態で、文字列の位置･文字幅･文字高さを変更することができます。

(4) カットラインの作成

ⓐ カットラインの作図
[作図] メニューの「楕円」を選択します。楕円の中心点でマウスを左クリックし、マウスを動かすと楕円が表示されますので、作成したい楕円の形状にして、もう一度マウスを左クリックしてください。

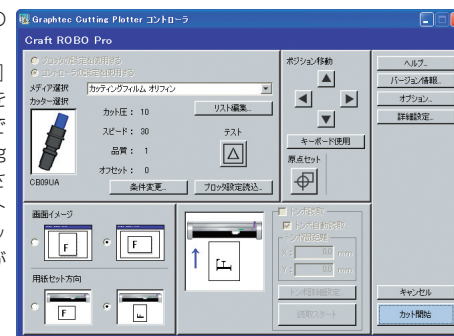
ⓑ 線色の設定
作図した楕円を選択した状態で［作図］メニューの「線種設定」を選択し、［線種設定］ウィンドウを表示します。［線種設定］ウィンドウの［線色の変更］ボタンを押すと、［色の設定］ウィンドウが表示されますので、カットデータにする色を選択してください。カットデータにする線の色は、デザインの中で使用されていない色を設定してください。

ⓒ 塗り潰し設定
作図した楕円を選択した状態で［作図］メニューの「塗り潰し設定」を選択すると、［塗り潰し］ウィンドウが表示されますので、「種類」から「透明」を選択してください。

以上の作業で、下記のような画面になります。青い楕円の外側の赤い線の楕円がカットデータです。

(5) カットデータの設定
［ファイル］メニューの「出力設定」を選択し、［出力設定］ウィンドウを表示します。［カット設定］タブを選択して、［カット条件設定］ボタンを押し、［カット条件設定］ウィンドウを表示します。カラーの中からカットラインに選択した色をチェックし、その他の色のチェックを外します

(6) 出力イメージの確認
［ファイル］メニューの「プレビュー」を選択し、［表示］メニューの「プリント」と「カット」を切り替えて出力イメージを確認してください。全てのトンボが印刷されることを確認し、印刷されない場合は、［編集］メニューの「トンボ設定」を選択して、［トンボ設定］ウィンドウでトンボの位置を変更してください。

(7) プリンタ出力
［ファイル］メニューの「プリンタ出力」を選択し、［プリンタ出力］ウィンドウを表示します。内容を確認して［OK］ボタンを押すと、プリンタに印刷します。

(8) トンボ読み取りとカット
プリンタで印刷したメディア（用紙）をプロッタにセットし、トンボ読み取りを行い、カットを行います。

ⓐ Cutting Plotterコントローラの起動
ROBO Master Proの［ファイル］メニューにある「カット出力」を選択し、表示されるウィンドウで［OK］ボタンを押すと、「Cutting Plotterコントローラ」が表示されます。「Cutting Plotterコントローラ」では、カッティングプロッタの条件設定を簡単に行うことができます。

ⓑ カット条件の設定
カットするメディア（紙やカッティングフィルム）に合わせて、カット圧・スピードなどのカット条件を設定します。プロッタの操作パネルでカット条件を設定するか、コントローラで使用するメディアを選択してください。また、プロッタの取扱説明書を参考にカッター刃の刃出し量も調整してください。（初めて使用するメディアの場合は、テストカットを行ってカット条件を決定してください）

ⓒ 画面イメージの設定
「画面イメージ」で、印刷したメディアに対するデザインの向きを設定します。

ⓓ 用紙セット方向の設定
「用紙セット方向」で、セットする時の方向を指定します。

※ 用紙セット時に奥になる部分は、マージンが多めに必要です。マージンと作図可能領域については、カット領域（赤線の枠内）にデータが入るようにしてください。

ⓔ メディアのセット
「用紙セット方向」で設定した方向にメディアをセットし、プロッタの操作パネルよりロードしてください。

※ カッティングフィルムや台紙付きメディア以外は、カッティング用台紙（Craft ROBO Pro/Pro Ⅱには付属しています）にメディアを貼り付けてから、カッティングプロッタにセットしてください。

ⓕ トンボ読み取りとカット
「トンボ読取」と「トンボ自動読取」のチェックがONになっていることを確認して、［カット開始］ボタンを押してください。この場合、トンボ読み取りとカットが連続して行われます。「トンボ読取に失敗しました。」と表示された場合は、ペン（カッター）に一番近いトンボのそばまでペンを移動して、再度「カット開始」を実行してください。
さらに「トンボ読取に失敗しました。」と表示された場合は、「トンボ自動読取」のチェックをOFFにして、ペン（カッター）に一番近いトンボの上（コントローラの中央やや下にあるイメージ中で、小さい緑色の四角の部分）にペンを移動して、［読取スタート］ボタンを押してください。トンボの読み取りに成功したら、［カット開始］ボタンを押してください。

※ Cutting Plotterコントローラについては、Cutting Plotterコントローラの取扱説明書を参照してください。

3.4 ROBO Master素材集をカットするには

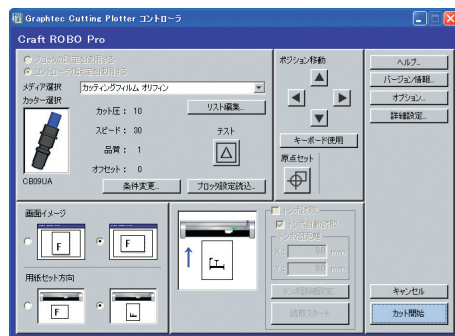
ROBO Master素材集は、ペーパークラフト用のデータです。
Craft ROBOのWebサイト(http://craftrobo.jp/)からダウンロードできます。

(1) データ読み込み
ROBO Maste Proでデータを読み込みます。

(2) 出力イメージの確認
[ファイル]メニューの「プレビュー」を選択し、[表示]メニューの「プリント」と「カット」を切り替えて出力イメージを確認してください。全てのトンボが印刷されることを確認し、印刷されない場合は、[編集]メニューの「トンボ設定」を選択して、[トンボ設定]ウィンドウでトンボの位置を変更してください。

(3) プリンタ出力
[ファイル]メニューの「プリンタ出力」を選択し、[プリンタ出力]ウィンドウを表示します。内容を確認して[OK]ボタンを押すと、プリンタに印刷します。

(4) トンボ読み取りとカット
プリンタで印刷したメディア(用紙)をプロッタにセットし、トンボ読み取りを行い、カットを行います。

ⓐ Cutting Plotterコントローラの起動
ROBO Maste Proの[ファイル]メニューにある「カット出力」を選択し、表示されるウィンドウで[OK]ボタンを押すと、「Cutting Plotterコントローラ」が表示されます。
「Cutting Plotterコントローラ」では、カッティングプロッタの条件設定を簡単に行うことができます。

ⓑ カット条件の設定
カットするメディア(紙やカッティングフィルム)に合わせて、カット圧・スピードなどのカット条件を設定します。プロッタの操作パネルでカット条件を設定するか、コントローラで使用するメディアを選択してください。また、プロッタの取扱説明書を参考にカッター刃の刃出し量も調整してください。(初めて使用するメディアの場合は、テストカットを行ってカット条件を決定してください)

ⓒ 画面イメージの設定
「画面イメージ」で、印刷したメディアに対するデザインの向きを設定します。

ⓓ 用紙セット方向の設定
「用紙セット方向」で、セットする時の方向を指定します。通常は、変更する必要はありません。

※ 用紙セット時に奥になる部分は、マージンが多めに必要です。マージンと作図可能領域については、カット領域(赤線の枠内)にデータが入るようにしてください。

ⓔ メディアのセット
「用紙セット方向」で設定した方向にメディアをセットし、プロッタの操作パネルよりロードしてください。

※ カッティングフィルムや台紙付きメディア以外は、カッティング用台紙(Craft ROBO Pro/Pro Ⅱには付属しています)にメディアを貼り付けてから、カッティングプロッタにセットしてください。

ⓕ トンボ読み取りとカット
「トンボ読取」と「トンボ自動読取」のチェックがONになっていることを確認して、[カット開始]ボタンを押してください。この場合、トンボ読み取りとカットが連続して行われます。
「トンボ読取に失敗しました。」と表示された場合は、ペン(カッター)に一番近いトンボのそばまでペンを移動して、再度「カット開始」を実行してください。
さらに「トンボ読取に失敗しました。」と表示された場合は、「トンボ自動読取」のチェックをOFFにして、ペン(カッター)に一番近いトンボの上(コントローラの中央やや下にあるイメージ中で、小さい緑色の四角の部分)にペンを移動して、[読取スタート]ボタンを押してください。トンボの読み取りに成功したら、[カット開始]ボタンを押してください。

※ Cutting Plotterコントローラについては、Cutting Plotterコントローラの取扱説明書を参照してください。

3.5 イメージを印刷しその周りをカットするには

イメージファイルを読み込んでプリントし、その周りをカットする手順を説明します。

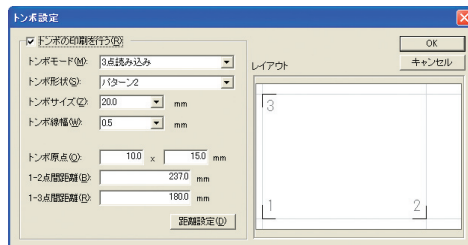
※「イメージファイル」とは、絵や写真などのデータファイル（BMP・TIF・JPEG等）のことを指します。

ここでは、先にトンボを作成し、その後でイメージファイルを読み込みます。

（1） トンボ設定

新規にデータを作成した後、トンボを作成するため［編集］メニューの「トンボ設定」を選択し、［トンボ設定］ウィンドウを表示させます。

「トンボの印刷を行う」にチェックを入れて、トンボ原点などを設定します。（ROBO Master Ver. 1.10以降では、トンボは初めからONに設定されています。）

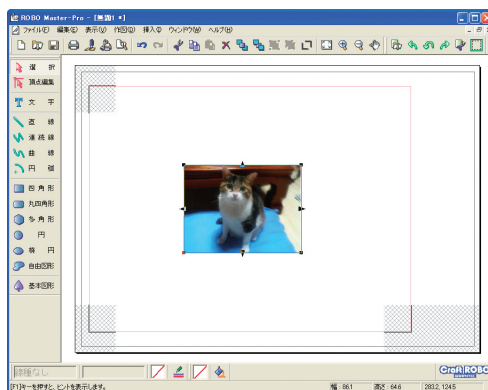
※ トンボ設定については、「4.10 トンボ設定ウィンドウ」を参照してください。

（2） イメージの読み込みと調整

ⓐ イメージファイル読み込み

［挿入］メニューの「ファイル読み込み」を選択すると、［開く］ウィンドウが表示されますので、読み込みたいファイルを指定します。イメージの枠が画面上に表示されますので、配置する場所を決めて左クリックしてください。

ⓑ イメージの調整

イメージデータの四隅に小さな四角があるときは、そのイメージデータが選択されている状態です。選択されていないときは、作図メニューの「オブジェクト選択」を選択し、イメージデータの上をクリックします。この状態でイメージデータを移動したり、拡大／縮小したりすることができます。

※ 図形の位置やサイズの編集については、「4.1.4 作図メニュー」の「オブジェクト選択」、「4.15 位置ウィンドウ」を参照してください。

（3） カットデータの作成

ⓐ カットデータの作図

読み込んだイメージの周りをカットするためのカットデータを作図します。［作図］メニューの「丸四角形」を選択し、イメージの左上の少し離れたところを左クリックします。マウスを動かすと丸四角が表示されますので、マウスを右下に動かし、イメージを囲むような大きさになったらもう一度クリックしてください。丸四角が完成します。

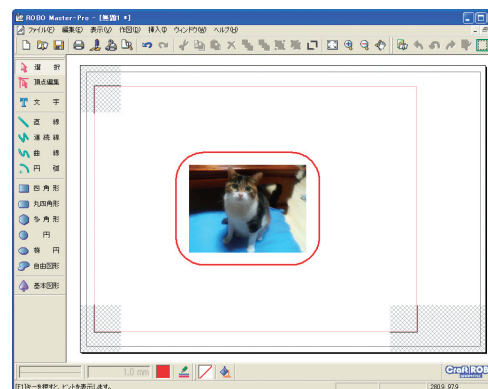
※ カットデータを作図する場合、「丸四角形」の他にも「多角形」や「円」等のツールも使用できます。

ⓑ カットデータの色の設定

カットデータの多角形を選択した状態で［作図］メニューの「線種設定」を選択し、［線種設定］ウィンドウを表示します。［線色の変更］ボタンを押して、カットデータにする色を選択してください。

ⓒ 塗り潰し設定

カットデータの多角形を選択した状態で［作図］メニューの「塗り潰し設定」を選択し、［塗り潰し設定］ウィンドウを表示します。「種類」から「透明」を選択してください。

ここまでの作業で、以下のような画面になります。

イメージの周りを囲んでいる赤い線がカットデータです。上図では、分かりやすいようにカットデータを大きめに作成してありますが、実際はイメージの枠ぴったりに作図しても構いません。

※ 貼り付けたイメージを切り抜く場合は、イメージを選択した状態で［編集］メニューの「イメージの切り抜き」をクリックしてから、四角形などの閉図形のツールを選択して作図してください。詳しくは、「4.1.2 編集メニュー」の「イメージの切り抜き」を参照してください。

ⓓ カットデータの設定

［ファイル］メニューの「出力設定」を選択して、［出力設定］ウィンドウを表示します。［カット設定］タブを選択して、［カット条件設定］ボタンを押します。［カット指定］ウィンドウが表示されますので、カラーの中から「（3）－ⓑ」でカットデータにするため選択した色がチェックされ、「カットライン」に「カット線」が選択されていることを確認してください。また、［プリンタ設定］タブを選択して、「カットラインを印刷する」のチェックをはずします。「カットラインを印刷する」にチェックが入っていると、プリントの際カットラインもプリントされます。

※ 出力設定については、「4.7 出力設定ウィンドウ」を参照してください。

（4）出力

ⓐ 出力イメージの確認
［出力設定］ウィンドウの［プレビュー］ボタンを押します。［表示］メニューの「プリント」と「カット」を切り替えて、プリントするイメージとカットするイメージを確認します。

ⓑ プリンタ出力
［ファイル］メニューの「プリンタ出力」を選択して、［プリンタ出力］ウィンドウを表示します。内容を確認して［OK］ボタンを押すと、プリンタに印刷します。

※ プリンタの取り扱いについては、ご使用のプリンタの取扱説明書を参照してください。

ⓒ トンボ読み取りとカット
「3.3 楕円の中に文字を描いて周りをカットするには」の「（8）トンボ読み取りとカット」と同じ操作になります。

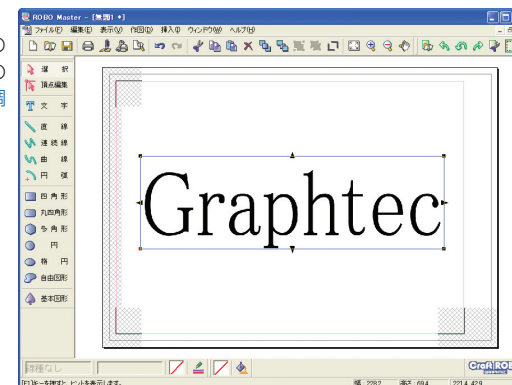
3.6 イメージのアウトラインを抽出しカットするには

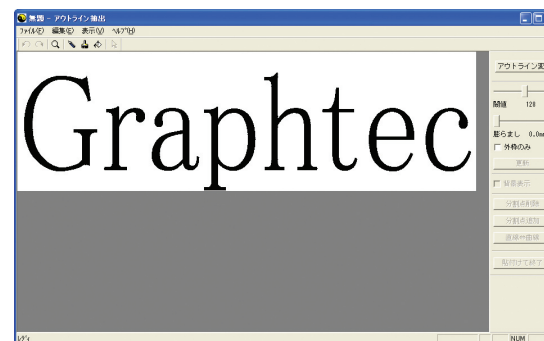
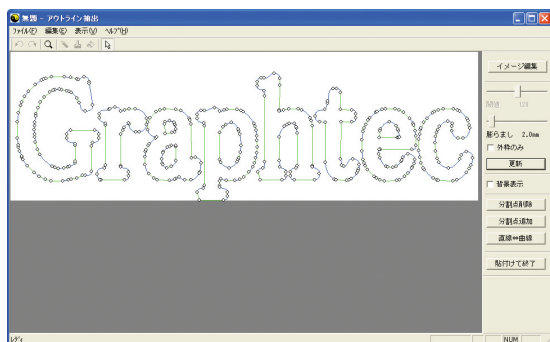
イメージファイルを読み込んで、そのアウトラインを抽出し、カットラインとして貼り付けてカットする手順を説明します。

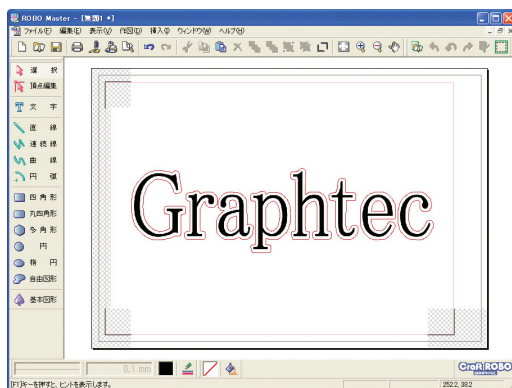
※「イメージファイル」とは、絵や写真などのデータファイル（BMP・TIF・JPEG等）のことを指します。

ここでは、先にトンボを作成し、その後でイメージファイルを読み込みます。

（1）トンボ設定
「3.5 イメージを印刷しその周りをカットするには」の「（1）トンボ設定」と同じ操作になります。

（2）イメージの読み込みと調整
「3.5 イメージを印刷しその周りをカットするには」の「（2）イメージの読み込みと調整」と同じ操作になります

（3）アウトラインの抽出

ⓐ アウトラインの抽出
イメージを選択した状態で［編集］メニューの「アウトライン抽出」を選択し、［アウトライン抽出］ウィンドウが開かれ、選択したイメージが表示されます。

閾値・膨らましなどの条件を設定し、［アウトライン変換］ボタンを押すと表示されているイメージがアウトラインに変換されます。

※アウトラインの抽出については、「4.9 アウトライン抽出ウィンドウ」を参照してください。

ⓑ アウトラインをカットラインとして貼付ける
[貼り付けて終了] を選択すると、アウトラインがカットラインとして選択されたイメージに貼付けられます。

ⓒ カットデータの色の設定
「3.5 イメージを印刷しその周りをカットするには」の「(3) カットデータの作成」「ⓑ カットデータの色の設定」と同じ操作になります。

ⓓ カットデータの設定
「3.5 イメージを印刷しその周りをカットするには」の「(3) カットデータの作成」「ⓓ カットデータの設定」と同じ操作になります。

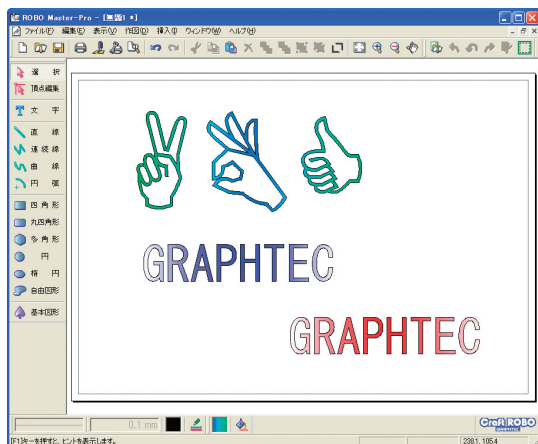
(4) 出力
「3.5 イメージを印刷しその周りをカットするには」の「(4) 出力」と同じ操作になります。

3.7 快適にお使いいただくために

下記の操作、ショートカットキーをご利用ください。

- マウスの右ボタンをドラッグして範囲を指定すると、指定した範囲を表示します。
- 同様にプレビュー上でもマウスの右ボタンでドラッグして範囲を指定すると、指定した範囲を表示します。
- [F2] キーを押すと、用紙全体を表示します。
- [F3]キーを押すと、移動モードになります。マウスの左ボタンをクリックしてドラッグすると、その方向に画面がスクロールします。さらに [F3] キーを押すと移動モードを解除します。

第４章　機能の詳細

4.1　メインウィンドウ

4.1.1　ファイルメニュー

新規作成..............新しいデータを作成します。
「新規作成」を選択すると、[用紙設定] ウィンドウが表示されます。作成するデータの大きさ・方向に合わせて用紙を設定し、[OK] ボタンを押してください。

※ 用紙設定ウィンドウについては、「4.2 用紙設定ウィンドウ」を参照してください。

開く......................保存されているデータを開きます。
「開く」を選択すると、[開く] ウィンドウが表示されます。開きたいファイルを選んで [OK] ボタンを押すと、選択されたファイルを開くことができます。

DXF読み込み......AutoCAD R13 形式のDXFファイルを読み込みます。
読み込めるDXFのオブジェクトは、線分・ポリライン・スプライン・円・円弧・楕円のみです。

※「DXFファイル」とは、AutoCADのファイルフォーマットのことを指します。

サムネイル表示...[サムネイル表示] ウィンドウを呼び出します。
[サムネイル表示] ウィンドウでは、左側にフォルダのリストとプレビュー画面、右側には指定したフォルダにある保存データとDXFデータを並べて表示します。表示されたイメージをダブルクリックすることにより、そのファイルを読み込むことができます。[サムネイル表示] ウィンドウを閉じるときは、右上の [×] ボタンをクリックしてください。

※「サムネイル」とは、縮小された画像が並んでいる見本のようなものを指します。

閉じる..................作業中のデータを閉じます。

上書き保存..........開いているデータを上書きで保存します。

名前を付けて保存
..............[名前を付けて保存] ウィンドウを表示します。
保存先を指定し、ファイル名を付けて [OK] ボタンを押すと保存されます。

用紙設定..............[用紙設定] ウィンドウを表示します。

※ [用紙設定] ウィンドウについては、「4.2 用紙設定ウィンドウ」を参照してください。

環境設定..............[環境設定] ウィンドウを表示します。

※ [環境設定] ウィンドウについては、「4.3 環境設定ウィンドウ」を参照してください。

プレビュー..........作業中のデータをプリント・カットした際の出力イメージを表示します。

※ プレビューについては、「4.4 プレビュー表示」を参照してください。

プリンタ出力......[プリンタ出力] ウィンドウを表示します。

※ [プリンタ出力] ウィンドウについては、「4.5 プリンタ出力ウィンドウ」を参照してください。

カット出力..........[カット出力] ウィンドウを表示します。

※ カット出力ウィンドウについては、「4.6 カット出力ウィンドウ」を参照してください。

出力設定..............プリンタやCraft ROBO Proへの出力全般の設定を行う、[出力設定] ウィンドウを表示します。

※ [出力設定] ウィンドウについては、「4.7 出力設定ウィンドウ」を参照してください。

終了......................ROBO Master Proを終了します。

4.1.2　編集メニュー

元に戻す..............直前の編集操作を取り消します。

やり直す..............「元に戻す」で取り消した編集操作をもう一度行います。

切り取り..............図形・文字・画像を選択した状態で「切り取り」をクリックすると、選択された図形を画面上から切り取ります。

コピー..................図形・文字・画像を選択した状態で「コピー」をクリックすると、選択された図形をコピーできる状態になります。

貼り付け..............切り取り、またはコピーされた図形を貼り付けます。
図形を切り取りした後に「貼り付け」をクリックすると、切り取りされた図形が元の位置に復元します。図形をコピーした後、「貼り付け」をクリックすると、コピーする図形の枠の色が黄色に変わります。その図形を左ボタンでドラッグすると、同じ図形がもう一つ出現しますので、配置したい位置まで移動させ左クリックしてください。

削除......................選択された図形を削除します。

反転......................選択された図形を反転させます。
左右反転、上下反転が使用できます。

前面に移動 ....選択された図形を最前面に移動します。
塗りつぶされた図形同士が重なっているとき、前に配置したい図形を選択して「前面に移動」をクリックしてください。

背面に移動 ....選択された図形を最背面に移動します。
塗りつぶされた図形同士が重なっているとき、後ろに配置したい図形を選択して「背面に移動」をクリックしてください。

グループ化 ....グループ化を行うと、複数の図形をひとつの図形として扱えるようになります。
グループ化を行うには、[Shift] キーを押しながら選択したい図形をクリックして、複数の図形を同時に選択します。その状態で、「グループ化」をクリックしてください。複数の図形を囲む大きな四角形が現れます。その四角形に囲まれた図形は、一つの図形として移動したり削除したりするなどの編集作業ができます。
複数の図形を使って絵などを作成したときにグループ化しておくと、ばらばらにならずに簡単に移動することができます。

グループ解除 ....グループ化を解除します。
グループ化を解除するには、解除したいグループを選択してから「グループ解除」をクリックします。

イメージの回転 ...イメージデータを90度毎に回転します。
回転させたいイメージデータを選択すると、「左90度」「180度」「右90度」が選択できるようになります。

イメージの切り抜き
...............イメージを切り抜きます。
① [挿入] メニューの「ファイル読み込み」で、イメージデータを読み込みます。
② 読み込んだイメージデータを選択した状態で、「イメージの切り抜き」にチェックを入れます。
③ 切り抜きモードになりますので、「四角形」「多角形」「自由図形」「楕円」などの閉図形を選択し、イメージ上で切り抜きたい形に作図します。
④ 作図が終了しましたら、イメージの外でクリックをしてください。作図した形に切り抜かれたイメージが表示されます。

※ 切り抜く形を作図する際、その図形がイメージから全てはみ出していると、イメージは全て切り抜きとなります。

アウトライン抽出
...............[アウトライン抽出] ウィンドウを表示します。

※ アウトライン抽出については、「4.9 アウトライン抽出ウィンドウ」を参照してください。

トンボ設定 ....[トンボ設定ウィンドウ] を表示します。

※ [トンボ設定] ウィンドウについては、「4.10 トンボ設定ウィンドウ」を参照してください。

※ トンボ設定は、枠切り機能と同時に使用することはできません。

グリッド設定 ....グリッドは、画面上にマス目を表示し、作図の目安とするものです。

※ [グリッド設定] については、「4.11 グリッド設定ウィンドウ」を参照してください。

4.1.3 表示メニュー

全体を表示 ....用紙全体が見えるように、作業中のデータの表示範囲と表示スケールを変更します。

拡大.......................作業中のデータの表示を拡大します。

縮小.......................作業中のデータの表示を縮小します。

移動.......................移動をONにすると、移動モードになります。もう一度選択すると移動モードを解除します。
移動モードにすると、カーソルが手の形になります。マウスで画面をドラッグすると画面をスクロールし、用紙の全範囲をみることができます。

※ 「移動」が使用できるのは、用紙が拡大表示されているときのみです。用紙全体が表示されている状態では表示する範囲を移動できません。

ツールバー ....メインウィンドウに各ツールボタンやバーを表示するかどうかを設定します。
「ツールバー」にマウスカーソルを合わせると、「標準ツール」「編集ツール」「作図ツール」「線種ツール」「塗りつぶしツール」の５つのリストが表示されますので、表示させたいツールをクリックしてください。表示されるツールには、チェックが付きます。

※ ツールボタンやバーには、メニューで選択するものと同様の機能が個々に割り当てられており、クリックすることで呼び出すことができます。割り当てられた機能は、ボタンやバーの上にマウスを数秒間停止させるとチップヘルプ（簡単な説明）が表示され、確認することができます。

ステータスバー ...メインウィンドウの下に状態や説明を表示するバーを画面に表示するかどうか設定します。

トンボ表示 ....トンボ設定で「トンボの印刷を行う」がONの場合にのみ使用できます。トンボを画面に表示するかどうかを設定します。

※ トンボについては、「4.10 トンボ設定ウィンドウ」を参照してください。

印刷領域表示 ....[出力設定] ウィンドウの [プリンタ設定] タブにある「用紙サイズ」で指定した範囲を元に、プリンタ固有のマージン（余白）等を引いた印刷可能な範囲が「印刷領域」です。
「印刷領域表示」にチェックを入れると、印刷できる範囲が表示されます。内側の薄い線で囲まれた部分です。

カット領域表示 ...カットできる範囲を示す薄い赤い線を画面に表示するかどうかを設定します。

※ 赤い線の外側にあるデータはカットされません。

グリッド表示 ....グリッドを表示します。

※ **「グリッド」とは、画面上にマス目または点を表示し、作図の目安とするものです。**

グリッドにスナップ

...............「グリッドにスナップ」を選択すると、グリッド表示の時画面に表示されるマス目の角または点に合わせて図形を配置できます。図形を選択したとき図形を囲むように表示される四角形の頂点のうち赤い四角が移動する際の基準点になります。

※ **グリッドについては、「4.11 グリッド設定ウィンドウ」を参照してください。**

4.1.4 作図メニュー

オブジェクト選択

...............既に作成された図形を選択するツールです。
図形を選択すると、図形を囲むように小さな四角形や三角形が表示されます。この状態では、以下のような操作を行うことができます。

● 位置の変更
マウスを図形の上に置くと、マウスカーソルが手の形になります。この状態でドラッグすると、図形の位置を変更できます。

● 図形の編集
マウスを小さな黒い四角形や三角形の上に置くと、マウスカーソルが双方向矢印になります。この状態でドラッグすると、図形の幅や高さを変更することができます。[Shift] キーを押しながら黒い四角形をドラッグすると、図形の縦横比を変えずにサイズを変更することができます。文字列は [Shift] キーを押さなくても、縦横比を変えずにサイズを変更することができます。

● 図形の回転
さらに図形をもう一度クリックすると、図形の四隅に小さな黒い丸が表示されます。マウスを小さな黒い丸の上に置くと、マウスカーソルは双方向矢印が輪になった形になります。この状態でドラッグすると、図形を回転することができます。

※ **イメージは、この方法では回転できません。イメージの回転については、「4.1.2 編集メニュー」の「イメージの回転」を参照してください。また、線分・イメージと図形をグループ化した場合や、イメージと図形を同時に選択している場合も回転できません。**

頂点編集.......図形の頂点を移動し、変形させるツールです。
このツールの効果は、図形により異なります。

● 連続線・多角形・曲線・自由図形

頂点の移動：これらの図形をクリックすると、各頂点に小さな黒い四角形が表示され、その四角形を左ボタンでドラッグすることにより頂点を自由に移動することができます。

頂点の追加：これらの図形の線上でマウスを右クリックすると、頂点を追加することができます。追加した頂点を移動することにより、より複雑な図形を作ることができます。また、頂点上でマウスを右クリックすると、頂点を削除することができます。

※ **曲線と自由図形の場合、頂点は、その一つ前または一つ後の頂点と同一の座標には移動できません。**

● 円弧
円弧をクリックすると、両端に小さな黒い四角形が表示され、円弧の開始点・終了点を変更することができます。(その間中心と半径は固定されます。)

※ **その他の図形(線分・文字・四角形・円・楕円・イメージ・グループ化した図形)をクリックした場合、オブジェクト選択ツールが動作します。**

文字...............文字を作成するツールを選択します。
文字は、以下のように作成してください。

① [文字] ツールを選択すると、[文字設定] ウィンドウが表示されます。
② [文字設定] ウィンドウで必要な設定を行い、[OK] ボタンを押します。
③ マウスカーソルの側に設定した文字列が表示されますので、配置する場所に移動させ、クリックして指定します。

※ **文字設定ウィンドウについては、「4.14 文字設定ウィンドウ」を参照してください。**

直線...............線分を作成するツールを選択します。
線分は、下記のように作成します。

① [線分] ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 始点をクリックして指定します。
③ 終点をクリックして指定します。

※ **[Shift] キーを押しながらクリックすると、終点を指定できる位置を始点から45度単位の角度に制限できます。**

連続線...........連続線を作成するツールを選択します。
連続線は、以下のように作成してください。

① [連続線] ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 始点をクリックして指定します。
③ 通過点をクリックして順次指定します。
④ 終点にしたい位置でダブルクリックします。

※ **[Shift] キーを押しながら指定すると、通過点や終点を指定できる位置を直前の点から45度単位の方向に制限できます。**

曲線...............曲線を作成するツールを選択します。
曲線は、以下のように作成してください。

① [曲線] ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 始点をクリックして指定します。
③ 通過点をクリックして順次指定します。(点と点が曲線で結ばれます。)
④ 終点にしたい位置でダブルクリックします。(終点は、始点を含めて3点目以上の点でなければ終点にできません。)

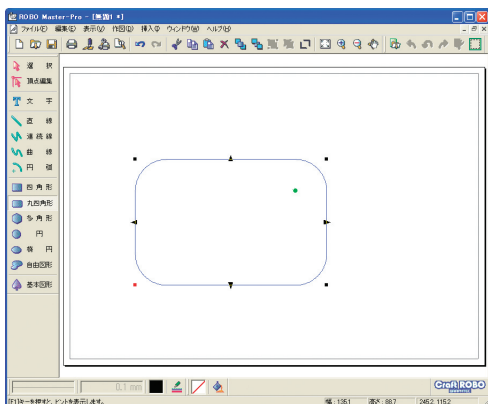
※ **通過点や終点は、一つ前の点と同一の座標には入力できません。**

円弧...............円弧を作成するツールを選択します。
円弧は、下記のように作成してください。

① [円弧] ツールを選択するとマウスカーソルが十字になります。

② 作成したい円弧が含まれる円の中心位置をクリックして指定します。
③ マウスを動かすと、先ほど指定した点を中心に円が表示されます。中心からマウスを動かした距離が半径となります。作成したい円の大きさになったら、クリックして確定してください。このときクリックした点が円弧の開始点となります。
④ マウスを動かして円弧を描き、終了位置をクリックして指定します。
※ 円弧の終了位置の指定時に［Shift］キーを押しながら指定すると、円弧を45度ごとに動かせるようになります。

四角形…………四角形を作成するツールを選択します。
四角形は、以下のように作成してください。
① ［四角形］ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 作成したい四角形のいずれかの角の位置をクリックして指定します。
③ 対角にある角の位置をクリックして指定します。
※ ［Shift］キーを押しながらクリックすると正方形になります。

丸四角形……丸四角形を作成するツールを選択します。
丸四角形は、以下のように作成してください。
① ［丸四角］ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 作成したい丸四角形のいずれかの角の位置をクリックして指定します。
③ 対角にある角の位置をクリックして指定します。
※ 丸四角形が作成された直後、丸四角形の中に緑色の丸が表示されます。その丸をドラッグすると、角の丸さを調節することができます。

※ ［Shift］キーを押しながらクリックすると、角の丸い正方形を作成することができます。

多角形…………多角形を作成するツールを選択します。
多角形は、以下のように作成してください。
① ［多角形］ツールを選択するとマウスカーソルが十字になります。
② 作成したい多角形のいずれかの角の位置をクリックして指定します。
③ 隣にある角の位置を順次クリックして指定します。
④ 最後の角の位置でダブルクリックします。
※ 多角形が作成された直後の、各点に小さな四角形が表示されている状態では、各点の四角形を移動して多角形を微調整することができます。また、［頂点の編集］ボタンで後からでも微調整を行うことができます。
※ ［Shift］キーを押しながら指定すると、角を指定できる位置を直前の角から45度単位の方向に制限できます。

円………………円を作成するツールを選択します。
円は、以下のように作成してください。
① ［円］ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 作成したい円の中心位置をクリックして指定します。
③ マウスを動かすと、指定した点を中心に円が表示されます。中心からマウスを動かした距離が半径となります。作成したい円の大きさになったら、クリックして確定してください。

楕円……………楕円を作成するツールを選択します。
楕円は、以下のように作成してください。
① ［楕円］ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 作成したい楕円の中心位置をクリックして指定します。
③ マウスを動かすと、指定した円を中心に楕円が表示されます。中心からマウスを縦方向に動かすと楕円は縦方向に大きくなり、横方向に動かすと楕円は横方向に大きくなります。
※ ［Shift］キーを押しながらクリックすると円になります。

自由図形……自由図形を作成するツールを選択します。
自由図形は、以下のように作成してください。
① ［自由図形］ツールを選択すると、マウスカーソルが十字になります。
② 作成したい自由図形のいずれかの点をクリックします。
③ もう一点クリックして指定し、マウスを動かすと曲線が輪になって表示されます。
④ 作成したい自由図形を描くように、順次通過点を指定していきます。
⑤ 最後の点でダブルクリックします。
※ 通過点や終点は、一つ前の点と同一の座標には入力できません。

基本図形……基本図形にはハート型など、よく使われる図形が登録されています。これらを自由に呼び出してデザインに使用することができます。呼び出された図形は、作図したものと同様に編集することができます。
基本図形は、以下のように呼び出してください。
① ［基本図形］ツールを選択すると、登録されている基本図形が画面に表示されます。
② 気に入った図形を選択し、マウスの左ボタンでダブルクリックします。
③ 図形の選択画面が消え、図形の大きさを示す枠がマウスカーソルの脇に表示されます。
④ 図形を配置したい位置にマウスカーソルを移動してクリックしてください。

線種設定.......線種や線幅・線の色などを設定する［線種設定］ウィンドウを表示します。
- 図形が選択された状態で呼び出した場合は､選択された図形の設定を変更します。
- 図形が選択されていない状態で呼び出した場合は、これから作成される図形に設定が反映されます。

※ 線種設定ウィンドウについては､「4.12 線種設定ウィンドウ」を参照してください。

 塗り潰し設定
...............閉図形の塗り潰しを設定する［塗り潰し設定］ウィンドウを表示します。
- 図形が選択された状態で呼び出した場合は、選択された図形の設定を変更します。
- 図形が選択されていない状態で呼び出した場合は、これから作成される図形に設定が反映されます。

※ 塗り潰し設定ウィンドウについては､「4.13 塗り潰し設定ウィンドウ」を参照してください。

文字設定...............文字のフォントやサイズなどを設定する［文字設定］ウィンドウを表示します。
- 文字が選択された状態で呼び出された場合は、選択された文字の設定を変更します。
- 文字が選択されていない状態で呼び出した場合は、以後に作成される文字に設定が反映されます。

※ 文字設定ウィンドウについては､「4.14 文字設定ウィンドウ」を参照してください。

位置.......................図形の位置・大きさ・回転角度を設定する［位置］ウィンドウを表示します。
図形を選択すると呼び出すことができるようになります。

※［位置］ウィンドウについては､「4.15 位置ウィンドウ」を参照してください。

4.1.5　挿入メニュー

スキャナの選択 ...Windowsに組み込まれている、スキャナのTWAINドライバを選択します。

スキャナ読み込み
...............選択されているTWAINドライバを起動し、スキャナからラスタイメージを取り込みます。
イメージ取り込み後は、イメージサイズを表す四角形がマウスカーソルの脇に表示されます。イメージを配置したい位置にマウスカーソルを移動してクリックしてください。

ファイル読み込み
...............イメージファイルやメタファイル（WMFファイル）を読み込みます。
「ファイル読み込み」を選択すると、［開く］ウィンドウが表示されます。［開く］ウィンドウでイメージファイルやメタファイル（WMFファイル）を選択し、［OK］ボタンを押すと、読み込んだ画像が配置されます。読み込まれるサイズを表す四角形がマウスカーソルの脇に表示されますので、配置したい位置にマウスカーソルを移動してクリックしてください。

メタファイル読み込み設定
...............［メタファイル読み込み設定］ウィンドウを表示します。
カットデータが付属されているWindowsメタファイルを読み込んだとき表示されるカットラインの色と、アウトライン抽出したとき表示されるカットラインの色を変更することができます。

※［メタファイル読み込み設定］ウィンドウについては､「4.16 メタファイル読み込みウィンドウ」を参照してください。

4.1.6　ウィンドウメニュー

重ねて表示...........開いている書類のうち、最小化されていないウィンドウを重ねて再配置します。

上下に並べて表示
...............開いている書類のうち、最小化されていないウィンドウを上下に並べて再配置します。

左右に並べて表示
...............開いている書類のうち、最小化されていないウィンドウを左右に並べて再配置します。

アイコンの整列 ...開いている書類のうち、最小化されているものを左下に整列させます。

4.1.7　ヘルプメニュー

使い方のヒント ...ROBO Master Proの便利な使い方を紹介するヒント集を表示します。

取扱説明書...........この取扱説明書のファイルを表示します。

Craft ROBO ホームページ
...............インターネットに接続可能な環境の場合、ブラウザを起動してCraft ROBOのホームページを表示します。

GRAPHTEC ホームページ
...............インターネットに接続可能な環境の場合、ブラウザを起動してグラフテックのホームページを表示します。

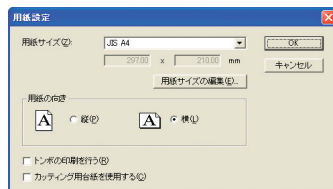
バージョン情報 ...このソフトウェアのバージョン情報を表示します。

4.1.8　Craft ROBOロゴ

Craft ROBO GRAPHTEC ..画面右下のCraft ROBOのアイコンをクリックすると、インターネットに接続可能な環境の場合、ブラウザを起動してCraft ROBOのホームページを表示します。

※ CE5000を使用する場合は、表示されません。

4.2 用紙設定ウィンドウ

［ファイル］メニューの「用紙設定」を選択すると表示され、作成するデータの大きさを設定します。

用紙サイズ...........作成するデータの大きさに合わせて、用紙サイズを設定します。

● 用紙サイズの編集

用紙サイズの選択肢「自由サイズ」を編集します。規定の用紙サイズ以外のサイズを使用する場合は、自由サイズに幅と長さを設定し、「用紙サイズ」で選択してください。

［用紙サイズ編集］ウィンドウには、下記の項目があります。

用紙名　：用紙の幅と長さを編集する用紙を選択します。用紙名を編集することができますが、既に存在するものと同じ用紙名は使用できません。

※ 用紙名には、「,」は使用できません。

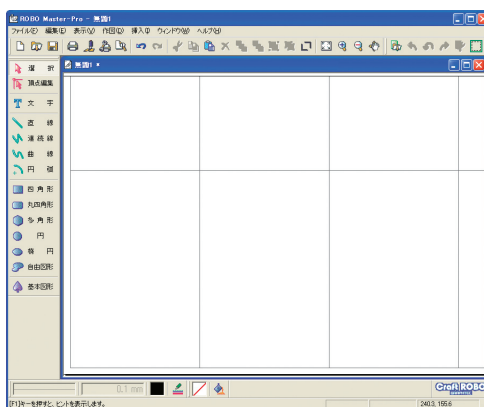
用紙幅　：用紙の幅を0.01mm単位で指定します。

用紙長さ：用紙の長さを0.01mm単位で指定します。

※ カッティング用台紙を使用する場合は、A3より大きいサイズを指定しないでください。

用紙の向き...........用紙の方向を「縦」と［横］から指定します。

※［用紙設定］ウィンドウで指定した用紙サイズが、［出力設定］ウィンドウの［プリンタ設定］タブで設定した用紙サイズより大きい場合に「印刷領域表示」をチェックすると、［用紙設定］ウィンドウで指定した用紙サイズを全てカバーできるよう、印刷可能領域が並んで表示されます。

例えば、［用紙設定］ウィンドウで、用紙サイズ「A4」・用紙の向き「縦」・［プリンタ］設定タブで、用紙サイズ「ハガキ」・印刷の向き「横」を選択した場合、上記のような表示になります。

トンボの印刷を行う

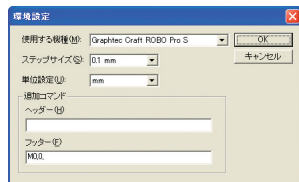
...............トンボの印刷のON/OFFを設定します。

※ トンボについては「4.10 トンボ設定ウィンドウ」を参照してください。

カッティング用台紙を使用する

...............付属のA3カッティング用台紙を使用する場合にチェックします。
A3カッティング用台紙を使用すると、Craft ROBO Proでカットできる範囲はほぼA3全体の領域になります。あらかじめ台紙に貼り付けられたカッティング専用メディア（カットフィルムなど）を使用する場合はOFFにしてください。

4.3 環境設定ウィンドウ

[ファイル] メニューの環境設定を選択すると表示されます。

使用する機種 ....接続するカッティングプロッタを選択します。

※ **インストール時に選択した機種がデフォルトの設定となります。**

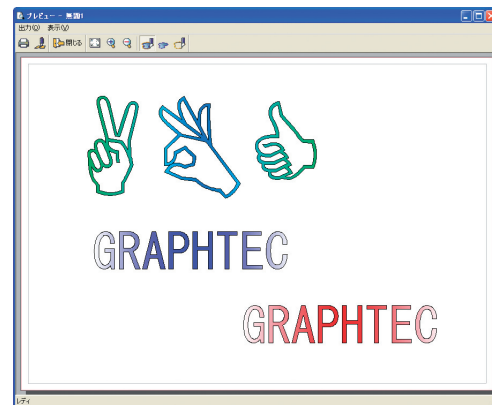
ステップサイズ ...プロッタに送る位置情報の単位サイズ（GDU）を指定します。

＊ **この設定は、プロッタ側の設定に合わせる必要があります。変更する際は、プロッタ側の設定も変更してください。プロッタの操作については、プロッタの取扱説明書を参照してください。**

単位設定..............単位を設定します。
「mm」または「inch」を選択します。ここで指定した単位は、本ソフトウェアの長さを指定する項目全般で使用されます。

追加コマンド ....特殊な用途に使用する場合、プロッタの制御用コマンドを追加指定することができます。
通常は変更の必要はありません。

4.4 プレビュー表示

[ファイル] メニューの「プレビュー」を選択すると、メインウィンドウがプレビュー表示モードに切り替わります。

4.4.1 出力メニュー

プリンタ出力 ....現在プレビューしているデータをプリンタへ出力します。

カット出力 ....現在プレビューしているデータをカッティングプロッタへ出力します。

閉じる...................プレビュー表示モードを終了します。

4.4.2 表示メニュー

全体を表示 ....プレビューの表示範囲と表示スケールを変更し、用紙全体が見えるようにします。

拡大.......................プレビューの表示を拡大します。

縮小.......................プレビューの表示を縮小します。

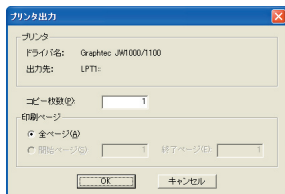
プリント&カット..プレビューを行う対象を切り替えます。
プリントするイメージにカットするイメージを重ねて表示します。

プリント ....プレビューを行う対象を切り替えます。
プリントするイメージのみを表示します。[出力設定] ウィンドウの「プリンタ設定」で「カットラインを印刷する」にチェックが入っている場合、カットラインも含めてプレビュー表示され、「プリント&カット」と同じ表示になります。

カット ....プレビューを行う対象を切り替えます。
カッティングプロッタへの出力イメージのみを表示します。「カット条件設定」でチェックが入っている色の線が、カットラインとして表示されます。

※ **[カット条件設定] ウィンドウで、カットラインとして使用する色がチェックされていない場合は選択できません。**

4.5　プリンタ出力ウィンドウ

［ファイル］メニューの「プリンタ出力」を選択すると表示されます。

プリンタ ....現在選択されているプリンタのドライバ名と出力先のポートが表示されます。

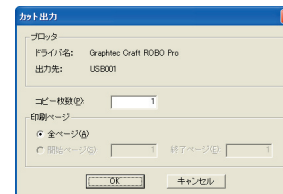
コピー枚数 ....コピー枚数を指定します。
範囲は、1～999枚までです。

印刷ページ ....印刷するページを指定します。
「全ページ」または「開始ページ」と「終了ページ」から選択してください。

※「開始ページ」「終了ページ」は、印刷するデータが複数ページ（2ページ以上）の場合しか選択できません。

OK ....現在作業しているデータが、プリンタに出力されます。

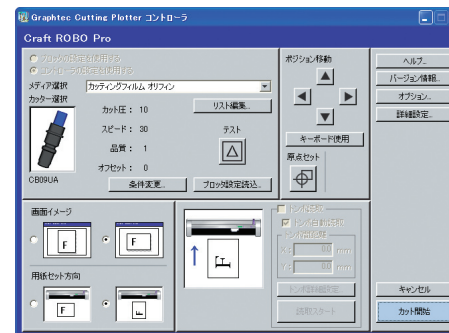
4.6　カット出力ウィンドウ

［ファイル］メニューの「カット出力」を選択すると表示されます。

プロッタ ....ドライバ名：カッティングプロッタのドライバ名が表示されます。
出力先　　：出力先のポートが表示されます。

コピー枚数 ....コピー枚数を指定します。
範囲は、1～999枚までです。

印刷ページ ....カットするページを指定します。
「全ページ」または「開始ページ」と「終了」ページから選択してください。

※「開始ページ」「終了ページ」は、カットするデータが複数ページ（2ページ以上）の場合しか選択できません。

OK ....［OK］ボタンを押すと「Cutting Plotterコントローラ」が起動します。
「Cutting Plotterコントローラ」を操作した後、［カット開始］ボタンを押すと出力が始まります。出力を中止したい場合は、［キャンセル］ボタンを押してください。

4.7 出力設定ウィンドウ

［ファイル］メニューの「出力設定」を選択すると表示されます。

4.7.1 常に表示される項目

［共通設定］［プリンタ設定］［カット設定］のタブの周りの、常に表示されている項目について説明します。

プリンタ..............Windowsに登録されている全てのプリンタドライバ名とそのポートが表示されます。
プリンタ出力を行う際に使用するドライバを指定してください。

※ プリンタドライバについては、ご使用のプリンタの取扱説明書を参照してください。

プロパティ...........プリンタで指定されたプリンタドライバの設定ウィンドウを表示します。

プロッタ..............カッティングプロッタのドライバ名とその出力先のポートが表示されます。

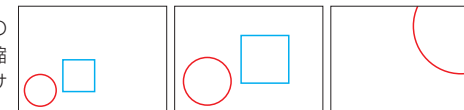
プレビュー...........設定した出力設定の内容を確定して、プレビューを表示します。

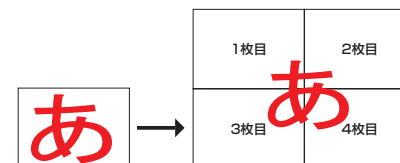
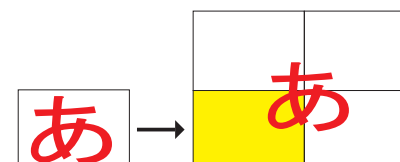
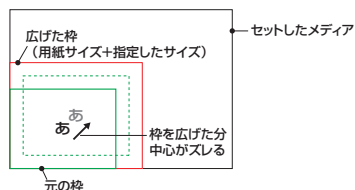
プリンタ出力.......設定した出力設定の内容を確定して、［プリンタ出力］ウィンドウを表示します。

カット出力...........設定した出力設定の内容を確定して、［カット出力］ウィンドウを表示します。

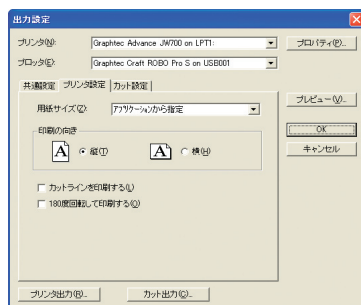
4.7.2 共通設定

［共通設定］タブの設定内容は、プリンタとカッティングプロッタに共通の設定です。

拡大縮小率...........出力する図形のサイズを拡大縮小します。
範囲は25～400%の間で指定でき、指定する数値は縦横の長さに対して等しくかかります。25%の場合、面積比では1/16になり、作図した図や文字・読み込んだ画像データが、それぞれの位置関係の比は変わらずに拡大縮小されます。用紙のサイズは変わりません。

オフセット...........指定した長さだけ出力する位置をズラします。
左側の数値指定ボックスにX（横）方向、右側の数値指定ボックスにY（縦）方向の数値を入力できます。数値の範囲は、用紙の設定などにより異なります。

- プリンタに出力する場合
ズラした分だけ印刷領域からはみ出したデータがある場合、データが全て収まるように、複数の用紙に分割して出力される場合があります。この場合は、4枚出力されます。
- カッティングプロッタに出力する場合
印刷領域に入っている部分のデータしか出力されません。この場合は、右図の黄色の部分だけ出力されます。

枠切り.....................用紙サイズの大きさに外枠をカットします。
型抜きのシールなどを作成する際、作図した用紙サイズより大きいメディアに対して、作図した用紙の大きさの分だけを剥がしたい場合に使用してください。
枠のサイズは、[用紙設定] ウィンドウの用紙と同じサイズです。枠は、指定したサイズだけ上下左右に広げることができます。サイズは、0.00～50.00mmの間で指定してください。また、枠のサイズを広げた場合、以下のように広げた分だけカットされる範囲からカットデータがズレます。

より小さい範囲の枠が必要な場合は、外枠のカットデータを作成してください。
枠切りがチェックされた場合、カット時に図形と共に枠をカットします。

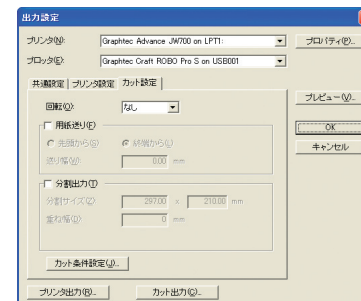
※ **枠切り機能は、トンボ機能と同時に使用することはできません。**

4.7.3　プリンタ設定

用紙サイズ............印刷する用紙のサイズを指定します。

印刷の向き............用紙（印刷）の向きを指定します。

カットラインを印刷する
................ONの場合、カット出力でカットされる線も印刷します。

180度回転して印刷する
................ONの場合、180度回転して印刷します。
プリンタとカッティングプロッタのマージンの違いにより、トンボを作成できる範囲が狭くなってしまう場合、この機能を使用すると改善されることがあります。

4.7.4　カット設定

回転.......................データを回転して出力します。
「なし」「90度」「180度」「270度」から選択します。

用紙送り...............出力終了後のメディアの扱いを設定します。
「先頭から」を選択すると、作図範囲の先頭位置より指定された長さを送ります。
「終端から」を選択すると、作図範囲の終端位置より指定された長さを送ります。

分割出力...............分割出力は、ご使用のメディアのサイズを超えるような大きなデータを、複数のページに分けて出力したい場合に使用します。ページの境界線は必ずカットします。

● 分割サイズ
ご使用になるメディアの大きさを入力してください。
メディアの向きが横の場合
　左側のテキストボックスに入る値の範囲は、50.00～16000.00mmです。
　右側のテキストボックスに入る値の範囲は、50.00～1213.00mmです。
メディアの向きが縦の場合
　左側のテキストボックスに入る値の範囲は、50.00～1213.00mmです。
　右側のテキストボックスに入る値の範囲は、50.00～16000.00mmです。

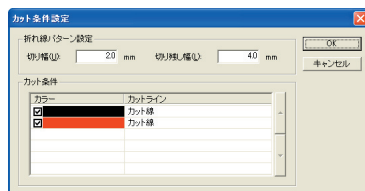
● 重ね幅
0～100mmの間で設定してください。
重ね幅に0以外の値を指定すると、指定した幅だけページを重ねて出力します。
施工時の位置合わせのために重なる部分を作りたいときにご使用ください。

※ **分割出力機能は、トンボ機能と同時に使用することはできません。**

カット条件設定 ...[カット条件設定] ウィンドウを呼び出します。
[カット条件設定] ウィンドウでは任意の色の線をカットラインに指定します。

※ **詳細は、「4.8 カット条件設定ウィンドウ」を参照してください。**

4.8 カット条件設定ウィンドウ

[出力設定]ウィンドウの[カット設定]タブにある[カット条件設定]ボタンを押すと表示されます。

折れ線パターン設定
...............厚紙など厚手のメディアを折る場合、折れ目がつきやすいように折れ線を付けることができます。また、折れ線は破線のため、切り取り線として使用することもできます。

※ **折れ線は、破線になります。薄いメディアに折れ線を使用すると、折り目をつけた部分のメディアが破れやすくなってしまう可能性がありますので、メディアの材質・厚さには十分お気をつけ下さい。**

● 切り幅
折れ線（破線）の切る部分の幅を設定します。
範囲は、0.1～100mmの間で指定してください。

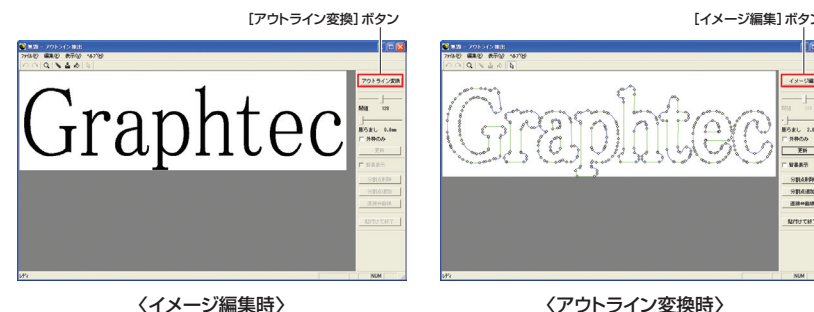
● 切り残し幅
折れ線（破線）の切らずに残す部分の幅を設定します。
範囲は、0.1～100mmの間で指定してください。

カット条件......● カラー
データ上にある全ての図形の外形線の色がリストアップされます。
使用した全ての色が自動的にカットラインに指定されますので、カットラインとして使用する色以外のチェックをOFFにしてください。

● カットライン
カラーのリストの色を「カット線」にするか「折れ線」にするかを選択します。
カット線に指定された色の線は、カット出力時に実線でカットされます。折れ線に指定された色の線は、カット出力時に破線でカットされます。
「カットライン」の下のマス目をクリックすると、ドロップダウンリストが表示されますので、そこから選択してください。

4.9 アウトライン抽出ウィンドウ

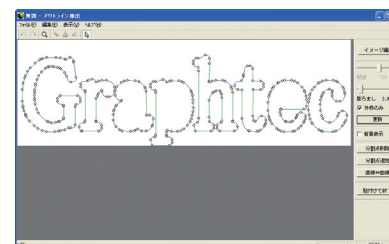
[編集] メニューの「アウトライン抽出」を選択すると表示されます。
イメージ編集時に[アウトライン変換] ボタンを押すと、アウトライン変換時のウィンドウが表示され、アウトライン変換時に[イメージ編集] ボタンを押すと、イメージ編集時のウィンドウが表示されます。

[アウトライン変換] ボタン　　[イメージ編集] ボタン

〈イメージ編集時〉　　〈アウトライン変換時〉

アウトライン変換／イメージ編集
...............[アウトライン変換] ボタンを押すと、イメージデータの輪郭をアウトライン変換します。
[イメージ編集] ボタンを押すと、アウトライン変換後の外形線ががたついたり、期待通りに表示されない場合は画像の修正をやり直すことができます。

閾値（しきい値）...取り込んだ画像は白黒のイメージデータに変換されますが、このとき白黒の区別は自動で行なわれます。この白と黒の区別は、[閾値] を変更して調整することができます。

膨らまし..............イメージデータの輪郭を指定された幅だけ膨らまし、アウトライン変換を行います。

外枠のみ..............イメージデータの外側の輪郭のみ抽出し、アウトライン変換を行います。

更新.......................アウトライン変換後に、「膨らまし」と「外枠のみ」のパラメータのみ変更し再度アウトライン変換を行うことができます。

背景表示...............アウトライン変換したアウトラインに背景としてイメージを表示します。

分割点削除...........アウトライン変換した線上の不要な分割点を削除します。

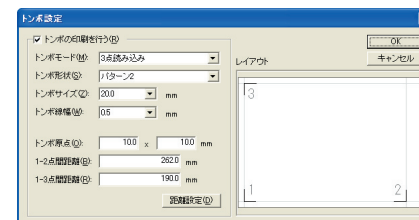
分割点追加...........アウトライン変換した後に、線上に分割点を追加します。

直線⇔曲線...........アウトライン変換した後に、直線と曲線を入れ替えます。

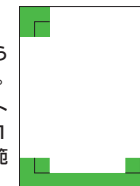
貼付けて終了.......「アウトライン抽出」画面を終了し、レイアウト画面にアウトラインを貼り付けます。

※ [アウトライン抽出] ウィンドウの詳細は、[ヘルプ] メニューの「トピックの検索」を選択すると表示されるヘルプを参照してください。

4.10 トンボ設定ウィンドウ

[編集] メニューの「トンボ設定」を選択すると表示されます。

※ トンボとは…
メディアに対してプリンタによる印刷とカッティングプロッタによるカットを両方行う場合、プリントイメージとカットラインの位置合わせを行う必要があります。その位置合わせのためにプリントイメージの周りに印刷されるものが「トンボ」です。「トンボ」は四角形の角（∟）の部分のような形状をしており、プリントイメージを囲むように３点に配置されます。

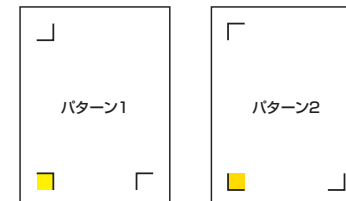
※ トンボを使用した場合、印刷を行う際にトンボ周辺の一定の範囲は印刷されません。トンボを使用する際は、絵や文字など印刷する部分が図の緑色で示された範囲に入らないようにしてください。ただし、カットデータは図の緑色の部分にも出力されます。

※ プリンタの印刷マージンによって全てのトンボが印刷されない場合、プロッタはトンボの読取に失敗します。このようなときは「トンボ原点」と「1－2点間距離」、「1－3点間距離」を変更して全てのトンボが印刷されるようにしてください。印刷範囲とトンボの位置の関係はプレビューで確認することができます。

トンボの印刷を行う
...............トンボ印刷をON/OFFします。

トンボモード.......トンボモードを表示します。通常は変更する必要はありません。

- ２点読み込み
  用紙の左下端と右下端の２点のトンボを読み込みます。
- ３点読み込み
  用紙の左下端・右下端と左上端の３点のトンボを読み込みます。
- ４点読み込み
  用紙の左下端・右下端と左上端・右上端の４点のトンボを読み込みます。

トンボ形状...........トンボの形状を表示します。
通常は変更する必要はありません。

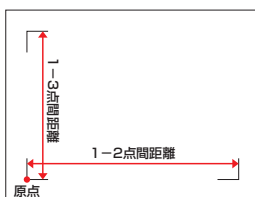
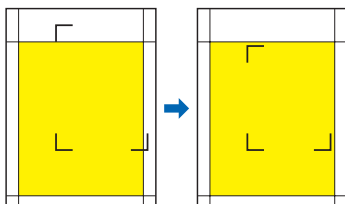
- パターン１
  トンボの角が用紙中央に向かって内側を向きます。
- パターン２
  トンボの角が用紙中央に向かって外側を向きます。

トンボサイズ.......トンボ（L）の大きさを指定します。
通常は変更する必要はありません。

トンボ線幅...........トンボの線幅を表示します。
通常は変更する必要はありません。

トンボ原点...........第１トンボの位置を指定します。
トンボ原点を変更すると、第１トンボがその位置に移動し、第２・第３トンボは第１トンボを基準に「１－２点間距離」、「１－３点間距離」を加算した位置に移動します。左側の数値入力ボックスは用紙の左右方向、右側の数値入力ボックスは用紙の上下方向の値を指定します。

※ トンボ原点を変更した場合、「距離設定」ボタンを押して第２・第３トンボの位置を調整してください。

- １－２点間距離
第１・第２トンボ間の距離を指定します。
- １－３点間距離
第１・第３トンボ間の距離を指定します。

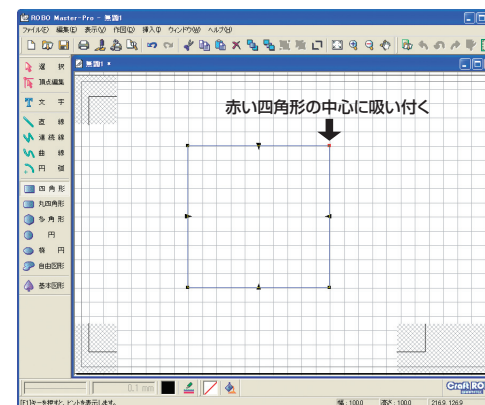
※ トンボ間の距離は、トンボの角から角の間の距離になります。

距離設定...............トンボの読み取りが可能な位置に第２・第３トンボを移動し、１－２点間距離、１－３点間距離の値を変更します。

4.11　グリッド設定ウィンドウ

［編集］メニューの「グリッド設定」を選択すると表示されます。

グリッドを表示する
...............グリッドを表示します。

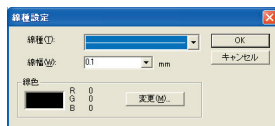
※「グリッド」とは、画面上にマス目または点を表示し、作図の目安とするものです。

グリッドにスナップする
...............「グリッドにスナップする」を選択すると、図形の作図・移動においてグリッドのマス目または点が単位になります。

- 「グリッドにスナップする」を選択してから作図すると、図形はグリッドのマス目単位または点単位に作図することができるようになります。
- 「グリッドにスナップする」を選択すると、図形を移動する際、グリッドのマス目の角または点に、図形を選択したとき図形を囲むように表示される小さな四角形の内、赤で表示されている四角形の中心が吸い付くように移動します。

グリッドの種類 ...線表示：画面上に縦横に等間隔に薄い灰色の線が表示されます。
点表示：画面上に等間隔に薄い灰色の点が表示されます。

グリッドの間隔 ...グリッドの間隔を設定します。
１～1000mmの間で１mmごとに設定します。

4.12 線種設定ウィンドウ

[作図] メニューの「線種設定」を選択すると表示されます。図形が選択された状態で呼び出した場合は、選択された図形の設定を変更します。図形が選択されていない状態で呼び出した場合は、これから作成される図形のデフォルト設定が変更されます。

線種......................リストから線種を選択します。
「実線」「点線」「破線」「一点鎖線」「二点鎖線」「線種なし（線は透明になります）」の６種類から指定してください。この設定は、画面上および印刷イメージに対してのみ有効です。

※ プロッタに出力する際の線種は、「4.8 カット条件設定ウィンドウ」の設定に従います。

線幅......................線幅を選択します。
数値入力も可能です。0.1～50.0mmの間の数値を指定してください。

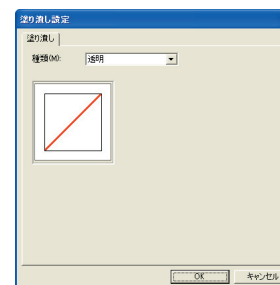
※ 線幅が指定できるのは、実線のみです。

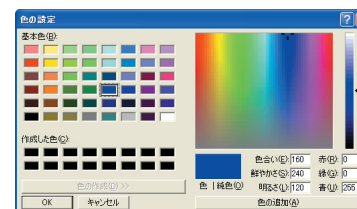
変更......................[色の設定] ウィンドウを呼び出し、線の色を指定します。

4.13 塗り潰し設定ウィンドウ

[作図] メニューの「塗り潰し設定」を選択すると表示されます。図形が選択された状態で呼び出した場合は、選択された図形の設定を変更します。図形が選択されていない状態で呼び出した場合は、これから作成される図形のデフォルト設定が変更されます。

種類......................塗り潰しのパターンを選択します。

● 透明
外形線のみの図形となります。

● ベタ塗り
単色で塗り潰しを行います。[色変更] ボタンで [色の設定] ウィンドウを呼び出し、塗り潰しの色を指定します。

色の設定ウィンドウ

● グラデーション
グラデーションで塗り潰しを行います。

開始色、終了色 ....グラデーションの始まりと終わりの2色を指定します（色の指定は、それぞれの[色変更] ボタンで [色の設定ウィンドウ] を呼び出して行ってください）。
ウィンドウ上に表示されるグラデーションは、中央が開始色・両端が終了色となります。

横移動..................グラデーションの横の移動を設定します。
目盛りを動かすと、動かした方向にウィンドウ上のグラデーションが左右にスクロールします。

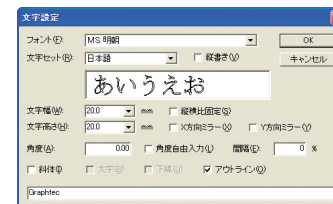
縦移動..................グラデーションの縦の移動を設定します。
目盛りを右方向に動かすと、ウィンドウ上のグラデーションが上方向にスクロールします。目盛りを左に動かすと、グラデーションは下方向にスクロールします。

回転.......................グラデーションの回転を設定します。
目盛りを右に動かすと、ウィンドウ上のグラデーションが左回転します。目盛りを左に動かすと、グラデーションは右回転します。

4.14 文字設定ウィンドウ

[作図] メニューの「文字」または「文字設定」を選択すると表示されます。

- [作図] メニューの「文字」をクリックして [文字設定] ウィンドウを呼び出した場合は、指定した文字列がダイアログの設定に従って書類上に作成されます。
- 文字図形が選択された状態で、[作図] メニューの「文字設定」で [文字設定] ウィンドウを呼び出した場合は、選択された文字図形の設定を変更します。
- 文字図形が選択されていない状態で、[作図] メニューの「文字設定」で [文字設定] ウィンドウを呼び出した場合は、これから作成される文字図形のデフォルト設定が変更されます。

※ 下図は、[作図] メニューの「文字」から呼び出した場合のウィンドウです。

フォント ....文字のフォントを指定します。

文字セット ....フォントが持つ文字セットを指定します。通常は、あまり意識する必要はありません。フォントによっては、複数の文字セットを持ち、文字セットの選択により異なる文字を表記できることがあります。

縦書き ....縦書き用文字を持つフォントだけが選択できるようになります。

文字幅...................1文字の幅を設定します。
※ フォントによっては、文字幅が異なる場合があります。

文字高さ ....1文字の高さを設定します。
※ フォントによっては、高さが異なる場合があります。

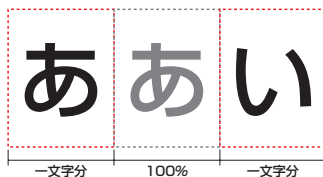
縦横比固定 ....文字列の変更の際に、フォントが持つ本来の縦横比を使用して、文字列の長さを自動調整します。

X方向ミラー........左右を反転させた鏡像で、文字列を作成します。

Y方向ミラー........上下を反転させた鏡像で、文字列を作成します。

角度.......................文字列の角度を指定します。

角度自由入力 ....ONの場合、文字列を作成した際、配置場所を指定した後角度をマウスで指定することができます。

間隔......................文字と文字の間の間隔を指定します。
指定の単位は%です。例えば、文字一つ分の間隔を空けるときは、100%を指定してください。

－50～400の間の数字を指定してください。

※ プロポーショナルフォントを使用する場合は、等間隔に間隔を空けることができなくなりますのでご注意ください。

※「プロポーショナルフォント」とは、一つ一つの文字の幅がそれぞれ異なるフォントの事を指します。Windowsで使われているフォントでは、「MS明朝」はプロポーショナルフォントではありませんが、「MSP明朝」はプロポーショナルフォントです。

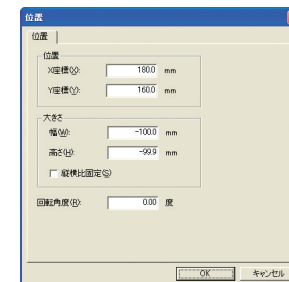
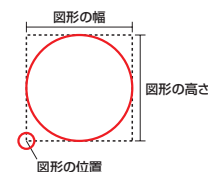
斜体......................文字を斜体（イタリック体）にします。

太字......................文字を太字（ボールド）にします。

下線......................文字に下線を付加します。

アウトライン......文字をアウトライン化（文字の外形線のみを表示）します。
この設定をONにすると、「太字」「下線」は設定できず、グレー表示になります。

4.15　位置ウィンドウ

［作図］メニューの「位置」を選択すると表示されます。図形が選択された状態の時のみ選択することができます。選択された図形の位置・大きさ・回転角度を設定します。

位置......................選択した図形の現在の位置をX座標とY座標で表します。
図形に外接する四角形を描いたとき、その左下の角が選択した図形の位置になります。ここでは原点は、用紙の左下の角です。座標には直接数値を入力して、図形の位置を決めることができます。（「オブジェクト選択」が選択され、画面上にマウスがあるとき、画面右下に現在のマウスの位置が座標で表示されますので、参考にしてください。）

大きさ..................選択した図形の大きさが、幅と高さで表示されます。
大きさには座標が反映されるため、現在の図形の位置から原点から離れる方向に向かって作図すると「＋」の値、逆に原点に近づく方向に作図すると「－」の値が表示されます。「幅」「高さ」には直接数値を入力して、図形の大きさを決めることができます。

縦横比固定..........ONにした場合、幅と高さの比率を変えずに大きさの変更ができます。
幅を変更した場合は高さが、高さを変更した場合は幅が自動的に変更されます。

回転角度..............選択した図形の回転角度を表示します。左回り360度で表します。
回転角度には直接数値を入力して、図形の回転角度を決めることができます。

4.16 メタファイル読み込み設定ウィンドウ

[挿入] メニューの「メタファイル読み込み設定」を選択すると表示されます。カットデータが付属される Windows メタファイルを読み込んだとき表示されるカットラインの色と、アウトラインを抽出したとき表示されるカットラインの色を変更することができます。作図した線と同じ色が使用され、カット線や折り線の指定に不都合がある場合は、変換される線の色を変更することができます。

カット線..............Windows メタファイルを読み込んだとき表示されるカットラインの色と、アウトラインを抽出したとき表示されるカットラインの色を選択します。

折れ線..................Windows メタファイルを読み込んだとき表示される、カットラインの折れ線の色を選択します。

色の変更..............[色の設定] ウィンドウを表示します。
[色の設定] ウィンドウで、「カット線」「折れ線」に指定したい色を選択して、[OK] ボタンを押してください。

第５章　エラーメッセージ

「用紙名が入力されていません。」

● [用紙サイズ編集] ウィンドウの用紙名に何も入力されていません。

⇒ [用紙設定] ウィンドウの [用紙サイズ編集] ボタンを押して表示される、[用紙サイズ編集] ウィンドウの「用紙名」に名前を入力してください。

「用紙名：○○○は、すでに使用されています。用紙名を変更してください。」

● [用紙サイズ編集] ウィンドウの「用紙名」に入力した名前は、すでに使用されています。

⇒ [用紙サイズ編集] ウィンドウで設定する「用紙名」には、同じ名前を複数登録することはできません。新しい名前を入力してください。

「○○○は用紙名に使用できません。」

● [用紙サイズ編集] ウィンドウの「用紙名」に入力した名前の中に、使用できない文字があります。

⇒ [用紙サイズ編集] ウィンドウの用紙名に「,」は使用できません。新しい名前を入力してください。

「現在のフォントで使用できない文字がふくまれています。フォントを変更してください。」

● [文字設定] ウィンドウに入力した文字列に、フォントや文字セットが対応していません。

⇒ [文字設定] ウィンドウに入力した文字列に、対応するフォントや文字セットを設定してください。

「ブラウザの起動に失敗しました。」

● インターネットブラウザが、正常に起動されなかったときに表示されます。

⇒ インターネットに接続できる環境でお使いください。

「重ね幅が分割した作図範囲を超えています。」

● 「分割出力」の「重ね幅」に、分割サイズの幅または高さより大きな値が指定されています。

⇒ [出力設定] ウィンドウの [カット設定] タブにある、「分割出力」の設定を確認し、適切な設定に変更してください。

「トンボ位置が用紙範囲を超えています。」

● トンボが、用紙範囲より外側に指定されています。

⇒ [トンボ設定] ウィンドウでレイアウトを確認し、用紙の外側にトンボがはみ出さないように修正してください。

「ファイルの内容に誤りがあります。」

● DXFのファイル読み込み中にエラーが発生しました。DXFファイルではない可能性があります。

⇒ DXF ファイルを作成したソフトウェアで読み込むなど、データを確認してください。

「有効なデータがありません。」

● DXF ファイルに ROBO Master Pro で扱えるデータが存在しません。

⇒ このデータは、使用することができません。

「このファイルの種類には対応していません。」

● 未対応のファイル形式を読み込もうとしました。
⇒ 指定したファイルは、読み込むことができません。

「ファイルの読み込みを中止しました。」

● ROBO Master Proの保存ファイルを読み込み中に、キーボードの[ESC]キーが押されました。
⇒ 読み込みが完了するまで、[ESC]キーは押さないでください。

「ファイルが作成できません。」

● 上書き保存に失敗したときなどに表示されます。
⇒ 書き込み禁止を解除して保存するか、別名で保存してください。

「ファイルに書き込めません。」

● ハードディスクの空き容量が少ない場合などに表示されます。
⇒ 保存先の空き容量を確認してください。

「初期化に失敗しました。出力できません。」

● 出力先として使用するプリンタドライバが使用できません。
⇒ デバイスの接続を確認してください。

「出力に失敗しました。」

● 「Cutting Plotterコントローラ」がすでに起動しています。
⇒ 起動している「Cutting Plotterコントローラ」を終了し、操作し直してください。

「Cutting Plotterコントローラの起動に失敗しました。」

● 「Cutting Plotterコントローラ」が起動できませんでした。
⇒ 「Cutting Plotterコントローラ」がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、付属のCDからインストールしてください。

「Graphtec<機種名>用ドライバ」が見つかりません。ドライバをインストールしてください。」

● 「Graphtec<機種名>用ドライバ」がインストールされていません。
⇒ 「Graphtec<機種名>用ドライバ」」を付属のCDからインストールしてください。

TWAIN関連

「TWAINデバイスでエラーが発生しました。」

● 機種設定ウィンドウで指定されたTWAINデバイスでエラーが発生しました。
⇒ TWAINデバイスの接続を確認してください。

「読み込みを中止しました。」

● ファイル読み込み中に、キーボードの[ESC]キーが押されました。
⇒ 読み込みが完了するまで、[ESC]キーは押さないでください。

「指定されたイメージは対応していません。」

● TWAINデバイスから、本ソフトウェアで読み込めないイメージ形式が出力されました。
⇒ TWAINデバイスの設定で、2値モノクロイメージ、または8ビット／ピクセルのグレースケール／カラーイメージ、または24ビット／ピクセルのカラーイメージを出力するように設定してください。

ファイル読み込み関連

「このファイルの種類には対応していません。」

● 未対応のファイル形式を読み込もうとしました。
⇒ 指定したファイルは、読み込むことができません。

「ヘッダ情報に誤りがあります。」

● ファイルのヘッダ情報に誤りがあります。
⇒ 指定したファイルは、読み込むことができません。

「ファイルの圧縮に誤りがあります。」

● 読み込むファイル形式に誤りがあります。
⇒ 指定したファイルは、読み込むことができません。

「タイル分割されたファイルは読めません。」
「LZWで圧縮されたファイルは読めません。」
「CALSType2のファイルは読めません。」
「CCITT2Dで圧縮されたファイルは読めません。」
「INTERGRAPH非圧縮のファイルは読めません。」
「INTERGRAPHRLE圧縮のファイルは読めません。」

● これらのエラーメッセージは、ROBO Master Proが対応していないファイル形式を読んだときに表示されます。
⇒ 指定したファイルは、読み込むことができません。

「イメージの更新に失敗しました。回転できません。」

● イメージ回転を行ったときに表示されるエラーメッセージです。メモリやハードディスクの空き容量が足りないときに表示されやすくなります。
⇒ 同時に動作している他のソフトウェアを終了するか、不要なファイルを整理してハードディスクの空き容量を増やしてください。

「指定されたメタファイルは読み込めません。」

● これらのエラーメッセージは、ROBO Master Proが対応していないメタファイルの形式を読んだときに表示されます。
⇒ 指定したファイルは、読み込むことができません。

索 引

数字

C

D

G

R

X

Y

かな

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

●本書の記載事項は、お断りなく変更することがありますのでご了承ください。

OPS661（ROBO Master Pro）取扱説明書　2006年5月12日発行
（OPS661-UM-103）　第1版　第1刷
発行　横浜市戸塚区品濃町503-10
グラフテック株式会社